

令和8年度保育士・幼稚園教諭向け連続研修会のご案内

例年開催し、大変好評をいただいております『保育士・幼稚園教諭向け連続研修会(全3回)』を、令和8年度も下記のとおり行ないます。幼児期の自閉症児への理解を深め、適切な支援のあり方などを学んでいただくため、児童精神科医で豊田市こども発達センター センター長の若子理恵先生をお迎えして行なう『幼児期の自閉症基礎講座』やグループワーク、保護者の立場からの体験談、自閉症擬似体験などを予定しております。参加ご希望の方は、開催要項をご覧の上、お申込み下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

研修日時・内容

《第1回》 令和8年6月7日(日) 10:00~16:00

午前＝幼児期の自閉症基礎講座(豊田市こども発達センター センター長 若子理恵先生)

*『幼児期の自閉症基礎講座』として基礎的な知識や、保育園・幼稚園など集団場面における自閉症児への対応について、児童精神科医の若子先生よりお話しいただきます。

午後＝サポートブック作成研修(愛知県ペアレント・メンター)

*「サポートブック」とは、子どものことを周りの人に知っていただくために必要な各種の情報を記入して作成したツールで、冊子やカードなどがあります。本人活動の際や緊急時に利用するなど目的は多種多様です。この研修では、実際に作成していただきます。

《第2回》 令和8年7月5日(日) 10:00~16:00

午前＝①自閉症擬似体験(愛知県ペアレント・メンター、キャラバン隊)

*キャラバン隊の公演で、自閉症の子どもの感覚や感じる独特の世界を擬似体験していただきます。

②発表“自閉症の子どもをもつ親の気持ち～幼児期を中心に”(”)

*自閉症の子どもをもつ保護者の子育て体験談、その時の親の気持ちなどをお話しします。

午後＝ケース検討ワークショップ・グループ発表(助言:若子理恵先生)

*4~5名のグループに分かれて、グループ別にこちらで用意したモデルケースの検討を行います。1グループに1名のペアレント・メンターがファシリテーターとして参加します。

《第3回》 令和8年10月18日(日) 10:00~16:00

午前＝事例検討ワークショップ・グループ発表

*4~5名のグループに分かれて、グループ別に事例検討を行います。1グループに1名のペアレント・メンターがファシリテーターとして参加します。

午後＝助言と質疑応答(若子理恵先生)

*第2回の研修後に現場へ持ち帰った事例へのフォローアップを行います。グループでの事例検討の中から、解決が困難だった事例や新たに起こった問題などを上げて、若子先生からご助言をいただきます。

講師 ○若子 理恵(わかこ りえ) 先生 児童精神科医/豊田市こども発達センター センター長

愛知児童青年精神医学会理事。名古屋大学医学部附属病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、豊田市こども発達センターのぞみ診療所などを経て平成31年より現職。主に自閉症を中心とした発達障がい臨床を専門とする。外来診療だけでなく一般、医師向けの講演のほか保育士など専門職の研修、関連図書の執筆なども数多く行っている。

○ペアレント・メンター

メンター(mentor)とは「信頼のおける相談相手」という意味。現在、各地で障害のある子どもを持つ親自身が、診断を受けたばかりの子どもの親やさまざまな子育ての疑問を持つ親に対して、共感しながら話を聞いたり、地域の情報を提供するなどしており、愛知県では、研修を受けたペアレント・メンターが各種の活動を行っている。

会場＝名古屋市高齢者就業支援センター 大会議室

(名古屋市昭和区御器所通 3-12-1 御器所ステーションビル 5F)

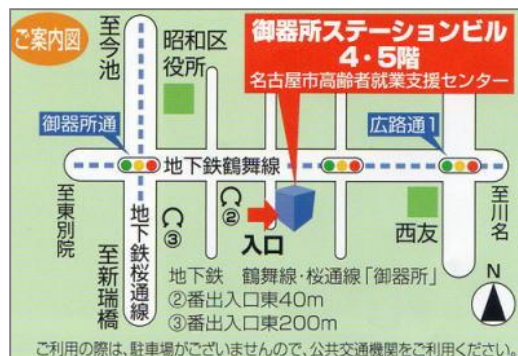
※3回とも同じ会場です。

- * 地下鉄鶴舞線②出口より東へ約 40m、
または桜通線③出口より東へ約 200m

公共交通機関をご利用下さい。

併設駐車場は、一般の方は利用できません。

お車でお越しの方は、自己負担で近隣のコイン
パーキングをご利用下さい。



対象：愛知県内において保育士・幼稚園教諭等として勤務されており、現在、自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害児の担任等で、「対応に困っている」「対応方法を学びたい」等の方。なお、原則として3回連続で参加可能な方を優先で受付します。

- * 今までこの研修に参加されたことのない方を優先で受付いたします。

また、全3回参加可能な方を優先で受付いたしますが、ご都合でそれが難しい方でもお申込みはできます。申込先までお問い合わせ下さい。

- * 応募者多数で調整が必要になった場合は、同一園から複数でお申込みの方に園内での人数調整の依頼をさせていただくこともございます。そのため、同一園から複数で参加希望の場合は、お申込みの際に代表となる方を1名お知らせ下さい。

定員：50名程度（応募者多数の場合は、調整させていただきます）

参加費：7,000円（全3回分）

- * 事前振込みが必要です。詳細については【申込方法】をご覧ください。

なお、欠席された場合でも返金はいたしません。

申込締切＝令和8年5月13日（必着）



ご不明な点等がございましたら、当会事務所までお問い合わせ下さい。会場への直接のお問い合わせはご遠慮下さい。なお電話でのお問い合わせは、10時～15時までの間で行います。時間外や不在の場合は、FAX・メールまたは留守番電話にメッセージをお入れいただければ、折り返しご連絡いたします。

特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会 主催

あいち発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センター 共催

【申込方法】 ！ 事前に、下記の方法でお申込み下さい！

Eメール または FAX で事前にお申込み下さい。

参加の可否は締切後(調整が必要な場合はその後)、申込者全員にご連絡いたしますのでしばらくお待ち下さい。

※ お申込みなしでの当日参加はできません。ご協力をお願いします。

<お申込みから受講までの流れ>

① Eメール または FAX で下記までお申し込み下さい。

件名を『保育士連続研修参加希望』とし、以下の項目をご記入下さい。

- ①参加者氏名
- ②〒・ご住所(勤務先の場合は名称もご記入下さい)
- ③連絡先(自宅や携帯など確実に連絡の取れる電話番号、また連絡可能な時間)
- ④FAX番号(自宅か勤務先園かも明記)
- ⑤所属園名、園所在の市区町村名、園でのお立場
- ⑥保育士としての経験年数および自閉スペクトラム症の子どもを担当したことのある年数
- ⑦現在、主に支援している自閉スペクトラム症の子どもの年齢・対応に困っている点など
- ⑧この研修会参加にあたって望むことなど
- ⑨参加証の返送方法・宛先(メールアドレス・FAX番号のいずれかを明記)

※記入漏れのないよう、ご注意下さい。

なお、メール等への申込受領の返信はいたしませんので、ご了承下さい。



② 締切日以降(応募者多数で調整が必要な場合は調整後)、参加決定者の皆様へは参加費お支払いについてのご案内をお送りいたしますので、指定口座へのお振込みをお願いします。なお、申し訳ございませんが、お支払いの際の払込手数料は各自でご負担いただきますようお願いいたします。



③ 参加費のご入金を確認でき次第、Eメール・FAXなどそれぞれご指定いただいた方法で参加証をお送りしますので、当日忘れないようお持ち下さい。スマートフォンからのお申込みで印刷できないという方は、画面で確認いたしますので、メールを保存していただくようお願いいたします。なお、Eメールでお申込みの場合は、必ず事前に当会からのメールが受信できるメール設定をしておいていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

※領収書が必要な方は、研修会当日にお渡しいたします。受付でお申し出下さい。

≪申込先≫ 特非) 愛知県自閉症協会・つぼみの会 「保育士連続研修」係

TEL; 052-938-6571、 FAX; 052-938-8242

E-mail; tubomi-aa@nifty.com



この「保育士・幼稚園教諭向け連続研修会」は、令和8年度で19回目の開催となりますが、毎年、参加された方々から好評をいただいております。昨年の終了後のアンケートから、参加者の皆様のご感想をご紹介します。

幼児期の自閉症基礎講座

- 自閉症の歴史や知識、かかわり方等について勉強になった。少子化や多様性等社会が変化し、保育現場でもインクルーシブ保育が進んでいく中で、保護者の意識の変化も知ることができた。より知識を深めていきたい。
- とても優しい視点の話で心にしみた。具体的な事例も交えた内容で、現在の仕事の出来事や悩みとリンクしてわかりやすかった。
- 診断する医師目線の話で、保育者が保護者に伝えておくべきことが印象に残っている。職場でも情報共有していきたい。
- 境界知能についてよく知らなかったが、この講座で学んで、サポートする視点がわかりやすくなった。視覚支援も取り入れているが、言語でのやり取りが可能な子でも視覚支援があった方がわかりやすいと聞いて、より積極的に取り入れようと思った。
- 児童発達支援で子どもたちと関わっていて、幼児期の大切さを実感している。幼児期からの支援がいかに大切か、これからの人生にも関わっていくと思うので、早期にその子の特性を理解し、保護者と一緒にその子に合った対応をしていけるようにしていきたい。
- 今年度から療育施設で勤務。勤務していた幼稚園の加配対象児とは自閉度の重さが違い、改めて自閉症について学ぶことができてよかった。先生の“ユニークな発達の子ども”という表現が、とても前向きな捉え方だなと感じた。
- 自閉症・発達障害については勉強しているつもりだったが、書籍やインターネットより、さらに細かな点まで学ぶことができた。課題がその子の伸びしろにあったものになるよう他の保育士とも連携し、子どもに対する支援の仕方を深めていきたい。

サポートブック(SB)作成研修

- 勤務先で似た様式を用いているが、自分での記入は初めて体験した。保育士が書く経験をすることで、保護者の気持ちになることができたし、思ったよりも時間がかかることなども予測できるようになった。成長後の振り返りの手立てにもなりそうだった。
- 長い保育時間の中で対応する保育士が変わることは避けられないため、保育士間の共通理解の方法として活用していきたい。
- 見本が何種類もあり、また実際の使用例を知ることができたので勉強になった。記入とともに、講師の先生の子育てエピソードも交えながらわかりやすく説明してもらえたので、保護者の気持ちがより分かった。
- 5歳児を担当しているので、小学校への引継ぎに活用できたらいい。まだ1年あるので、成長を期待しながらアップデートさせたい。
- 「肯定的な言葉で」「子どもが見て傷つかないもの」等、作成する際に意識しなければいけないと思うことがたくさんあった。「□□できません」ではなく「□□ならできます」という表現にすることで、受け取り手がどのように受け止めるかを考えて記入したい。
- 同じグループの方の話の聞いたり、立場が違う方から視点を変えた捉え方等、S B作成で客観視する大切さや難しさを実感した。

擬似体験・保護者の思い

- 職場のスタッフにも体験してもらいたいくらい、子どもの立場や気持ちになって考えることができてよかった。もっと話を聞きたかった。
- 実際に体験してみると予想以上にいろいろな動作の難しさを感じた。丁寧にゆっくりと落ち着いて行動できる環境へ見直したい。
- 折り紙が好きなお子にも声掛けをしたり「こうしたら」などと手を出していたが、いつも自分がやっていたことはこんなに邪魔だったのか？良かれと思ってやっていた行動を見直すことができた。困りごとをわかっているつもりだったが、「やりたいけどやりづらい」「早く、がんばれ」といわれる辛さを体験した。環境が精神面へ影響することを実感したので、療育にあたって環境を十分に整えるようにしたい。
- 障害受容の親の気持ちに関しては、実際の体験談を聞くことができて貴重な体験。今後も保護者との関係作りを行っていきたい。
- 保護者に園での様子を伝える時に、何度もぶつかる壁。後戻りを繰り返す気持ちにも寄り添っていけるようにしたい。
- 保護者の気持ちへの対応は本当に難しい。実際に診断後の受容ができず行事・懇談会等に参加できない保護者がいる。若い職員の中にはコミュニケーションが苦手だったり、どう対応していいかわからないという職員もいて、どちらも考えてないといけない課題。
- 就学に向けて保護者と話し合う機会が多いため、親の気持ちや、成長して社会人になったお子さんの話を聞けてよかった。
- 受容については、100人いたら100通り。子どもの背景に対しての理解が大切で、長い目で丁寧に寄り添っていきたい。

グループワーク

- 自分とは違う意見や思いつかないような視点からの意見をたくさん聞けて大変勉強になり、話し合いでより深く考えることができた。一つのケースでも保護者・保育士・看護師と立場が違うことで対応の考え方が異なるため、いろいろ実践してみたいと感じた。
- メンターからの生の声が聞けて、自分が今、していることが今後にどのように生かされていくのかということに気づけたことが嬉しかった。
- 具体的な場面での内容、気持ちの検討、対応策の共有ができ、自身の中で持っていた価値観にプラスして、新しい考え方に触れることができた。メンターと一緒に入って検討してくれたので、保護者目線での考え方や支援について知ることもできてよかった。
- 「この方法いいね」と言ってもらえたり、「これはこうしたらもっとうまくいくかも」とアドバイスをもらえたりで日々の保育に自信を持てた。
- たくさん意見が出て、それをまとめる力も必要だと思った。これを職員会議でできると理想だが、時間等難しい面もあるのが悩み。
- 各自が付箋で意見を張り出す方法は、見やすくわかりやすいし、まとめやすくていいと思った。
- 1・2回の研修内容を持ち帰って現場で活かしたこともあり、自分自身の意識が変わった。座学中心でない研修は勉強になる。